

ようこそ学長室へ 263

～支え合って掴んだ勝利～

梅雨の季節となりましたが、青空の見られる日も多い今日この頃。皆さんいかがお過ごしでしょうか。さて今回のお客様は、2026 東海学生卓球新人大会女子ダブルスの部で、21 年ぶりに優勝を飾った、津田希那さん（経営 1）、黒沢美來さん（看護 1）のお二人です。名古屋市天白スポーツセンターで開催された大会には、中京大学、朝日大学、愛知工業大学、愛知大学、愛知淑徳大学、愛知教育大学、名古屋大学などから 32 ペアが出場し、津田・黒沢ペアは、1 回戦はシードされ、2 回戦から決勝までの計 4 試合を戦いました。当日の試合の様子や勝因などを伺いました。

初めに現在の心境を尋ねると「4 月にペアを組んだばかりで息の合わない所がたくさんあって、試合前は『ベスト 4 を狙えればいいかな』という気持ちでいました。優勝という結果には驚いています」（津田）「準決勝で強豪の愛工大ペアと当たる予定が別の大学との試合になり、運も味方してくれました。練習ではコンベネーションも合わず、調子もあまり良くなかったので、優勝は驚きでした」（黒沢）と無欲で大会に臨んでいたことがわかりました。勝因を尋ねると「自分自身は練習から安定したプレーができていたので、黒沢さんの調子が鍵を握っていました。当日は調子が良く、ミスしても引きずることなくできたのが要因だと思います」（津田）「津田さんから『とにかくつないでいこう』『大丈夫』など声を掛けてもらい、リズムよくプレーできました。積極的に声を出し、前向きにプレーできたことが要因だと思います」（黒沢）と互いの力を引き出しながらプレーしていた様子が伝わりました。苦勞した試合は「決勝戦の中京大戦です。相手に勢いがあるって攻めのプレーが多く、受け身にならないように頑張りました」（津田）「準決勝の朝日大学戦です。2 対 0 から第 3 セットを大差で落とした時、全てがうまく行きませんでした。津田さんのアドバイスに助けられました」（黒沢）とのこと。

今後の抱負を尋ねると「チームでは東海学生リーグ優勝、インカレベスト 16、個人は全国上位者のランク入りを目指したい」（津田）「チームではインカレベスト 16、個人は全国ランク入りしたい」（黒沢）と笑顔で伝えてくれました。

今回の取材を通じて津田さんは「常に冷静でマイペース」、黒沢さんは「感性豊かで明るく」、対照的な雰囲気を持ったペアでした。その中で、お互いの欠けている部分を補い合い、長所を前面に出しながらプレーできたことが成果につながったと感じました。スポーツでも仕事でも大切なことは同じだと改めて感じました。#スポーツ

取材後記：卓球は幅広い世代で一緒に楽しめるし、選手によってプレースタイルがあり、いろいろなパターンの人と戦える。卓球の新たな魅力を教えてもらいました。（き）



左から、津田さん(武蔵野)、黒沢さん(青藍泰斗)
※ () 内は出身校